

セシウム汚染水を浄化

伊賀・三重中央開発

絵の具の顔料で新技術開発

除去率99.99%

【伊賀】廃棄物処理会社の三重中央開発（伊賀市予野）は二十四日、記者会見し、放射性セシウムで汚染された水を浄化する新技術「PB-X」を開発したと発表した。昨年七月に特許出願し、今月末には認められる見通しという。

「PB-X」は絵の具の顔料などとして知られるプルシアンブルー（PB）を活用したセシウム除去技術。セシウム汚染水からセシウムを高効率で除去し、処理水中に毒性の高いシアンが残らないのが大きな特

長。コストも安いという。仕組みとして、セシウム汚染水にフェロシアン化塩と塩化鉄を入れると、瞬時に生成されたPBがセシウムを吸着。除去率は一時間で99.99%で、さらに遷移金属の水酸化物を入れると、上澄み液中のシアン濃度が検出されず、排水基準を大きくクリアしたという。

住宅の屋根瓦などの除染

によるセシウム汚染水処理、清掃工場での焼却飛灰のうち、埋め立て処理できない八千超の保管飛灰の洗浄処理水対策などに貢献できるという。

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故で、放出された放射性物質による汚染が復興の妨げになっており、嶋本文夫副所長は「東北復興を技術で貢献できる」と話した。

大田成幸常務は会見で、「一年かけて開発した。科学的分野の特許は初めて」と話し、現地の実用化に向けては課題も多く、さらに努力していくとした。

（山下三男）



会見する（左から）大田成幸常務、嶋本文夫副所長
伊賀市予野の三重中央開発で